

令和7年度大阪体育学会奨励賞をいただきました大阪産業大学の廣田音奏と申します。このたびは身に余る賞をいただき大変光栄にございます。

今回奨励賞をいただいた研究では、若年者が高齢者セット装着の有無による実験条件の差が、転倒時の各種パラメータにどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的としました。研究の結果、転倒時の衝撃緩和には個体差や動作戦略の違いが関与する可能性が示唆されました。これらの知見は、転倒外傷のリスクが加齢や筋力低下のみならず、身体制御様式や運動経験の違いによって規定される可能性を示しています。さらに本研究から、転倒外傷の予防には高齢期のみならず、より早期の発達段階における教育的介入の重要性が示唆されました。

今日の日本のみならず高齢社会へ向かう多くの国々において、「転倒」とそこから惹起される傷害は社会的課題となっています。今後は、幼児期から児童期にかけての運動遊びや体育活動の中に、転倒時の衝撃緩和能力を育成する「転倒教育」を位置づけ、その有効性を検証していくことが課題であると考えております。

本研究の遂行にあたり、多大なるご指導とご助言を賜りました河鱒一彦教授（関西学院大学）、内田勇人教授（兵庫県立大学）に心より感謝申し上げます。また、研究にご協力いただいたすべての皆様に深く御礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、今後も転倒予防に関する研究を通じて、安全な社会の実現に貢献できるよう努めてまいります。

この度は誠にありがとうございました。